氏名

学籍番号

英文の箇所：Paper

改善案

分析

対策

例

氏名 阪大太郎

学籍番号 xxxxxxxxxx

**英文の箇所：Paper 0**

He **am** a good boy. I **sawed** him last night. He **were** very kind.

**改善案**

He **is** a good boy. I **saw** him last night. He **was** very kind.

**分析**

この著者の人は、動詞の活用をうまく使えていない。第一の下線部は、現在時制のbe動詞の活用、第二の下線部は過去時制における不規則動詞の活用、第三の例は過去時制におけるbe動詞の活用が正しく使えていないことを表している。

**対策**

動詞の活用を間違えないで済むようにするためには××ということが効果的であると思われる。